

災害救援金事業「西日本豪雨災害救援金」



2018年6月28日から7月8日にかけ、西日本各地を襲った豪雨により、土砂崩れや河川の氾濫などで甚大な被害が出たことから、7月9日付夕刊から「西日本豪雨災害救援金」の募集を開始しました。

9月4日に第1次贈呈分として日本赤十字社岡山県支部、同広島県支部、愛媛県に3,000万円を寄託したのをはじめ、19年3月1日にも第2次分として同岡山県支部、同広島県支部、愛媛県に1,000万円を寄託しました。これまでの贈呈総額は4,000万円となりました（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では1億3,172万円）。

小田川の堤防が決壊し、濁流に覆われた市街地。奥は高梁川＝岡山県倉敷市真備町で2018年7月7日、本社ヘリから加古信志撮影

北海道地震救援金

北海道胆振東部を襲った震度7の地震により、2018年9月8日付朝刊から「北海道地震救援金」の募集を開始、全国の読者から多くの救援金が寄せられました。

11月2日に第1次贈呈分として厚真町に1,000万円を寄託、19年3月1日にも第2次分250万円を同町に寄託しました。贈呈総額は1,250万円となりました（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では3,799万円）。

地震による土砂崩れで民家などに大きな被害が出た現場＝北海道厚真町で2018年9月6日、本社機「希望」から佐々木順一撮影



東日本大震災救援金・毎日希望奨学金

●東日本大震災救援金

2019年3月1日に第17次分として、前年度繰越し額とあわせて100万円を日本赤十字社に寄託しました。今回で贈呈総額は4億6,977万2,718円となりました（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では11億3,790万256円）。

毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設）は、8年目を迎えました。

2018年3月9日付朝刊で「奨学生募集」



の社告を掲載するとともに、被災地の高校や大学などに直接照会をかけました。50人の募集枠に対して77人が応募。5月7日に選考委員会が開かれ、全会一致で77人に支給が決定。奨学生数は継続者とあわせて203人（高校生95人、短大・大学・大学院生87人、専修学校生21人）になりました。その後、10月1日に大学生1人が休学したため、下記のとおり支給しました。

■2018年度

4月25日、203人（4、5、6月分：6月23日支給の新規分含む）1,218万円を支給。

7月25日、203人（7、8、9月分）1,218万円を支給。

10月25日、202人（10、11、12月分）1,212万円を支給。

19年1月25日、202人（1、2、3月分）1,212万円を支給。

小計4,860万円を支給。

■2017年度

• 194人（最終数）4,656万円を支給

■2016年度

• 192人（最終数）4,626万円を支給

■2015年度

• 215人（最終数）5,184万円を支給

■2014年度

• 214人（最終数）5,154万円を支給

■2013年度

• 240人（最終数）5,766万円を支給

■2012年度

• 188人（最終数）4,554万円を支給

■2011年度

• 156人、3,744万円を支給

2011年4月からの合計支給額

3億8,544万円

「世界子ども救援キャンペーン」40周年

紛争や災害などで貧困に苦しむ子どもたちを救う、本団と毎日新聞社による「世界子ども救援キャンペーン」が40年目を迎えました。

国際児童年の1979年、「飢餓・貧困・難民救援キャンペーン」としてスタートし、毎年取材班を派遣し続け、延べ81班が59カ国・地域を訪れました。読者など

からの寄付金は16億3,278万円となり、国内外の被災地で活動する国連機関や難民支援活動団体などに贈られています。

🌸「暴虐の傷痕 イラクIS後」

大阪本社社会部・千脇康平記者と写真部・木葉健二記者を2018年8月2日から31日まで、イラク北部に派遣しました。

「イスラム国(IS)が子どもたちに残した傷跡」をテーマに、ISの暴力や戦禍を生きのび、心に深い傷を抱えながら懸命に生きる子どもたちの姿を中心に取材し、「暴虐の傷痕 イラクIS後」のタイトルで、9月24日付朝刊から6回にわたる連載をはじめ、10月13日と24日には見開き特集を掲載し、「世界子ども救援金」を募集しました。

また、東京本社からも内戦が続く南スーダンに特派員2人を派遣し、「独立の果てに 南スーダン難民報告」のタイトルで、6月23日付朝刊から5回の連載と7月5日に見開き特集、7月24日と9月3日に1ページ特集を掲載し、同様に救援金を募集しました。

なお、40年にわたる本キャンペーンは、国際交流・国際貢献報道部門で優れた報道を顕彰する第26回坂田記念ジャーナリズム賞を受賞しました。

🌸「報道写真展」京都、大阪で開催

報道写真展「暴虐の傷痕 イラクIS後」(カラー写真33枚展示)を次の2会場で開催しました。

2018年11月27日～12月20日、京都市の立命館大イ笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館1階ギャラリー(協力・立命館大文学部、同大図書館)。

19年2月6日～11日、大阪市の堂島アバンザ1階エントランスホール(協賛・堂島アバンザ管理株式会社、協力・ジュンク堂書店)＝写真。



灼熱の避難民キャンプに夜のとぼりが下り、テントから外に出た女の子がひとりたずむ＝イラク・ニナワ県のハゼルM1キャンプで木葉健二撮影



爆撃によって家族の大半を亡くし、腕を負傷したアリ君。身を寄せる親族宅にこもりがちだ＝イラク・東モスルで木葉健二撮影

世界子ども救援金13団体に贈呈

「世界子ども救援金」は「取材地助成」「公募助成」「継続助成」の3つの助成を行いました。

- 「取材地助成」5団体に総額205万円を贈呈
 1. JIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)
 2. 国境なき医師団日本
 3. Our Bridge(ハルマン孤児院支援)
 4. 高遠菜穂子(ピース・セル・プロジェクト)
 5. 日本国際ボランティアセンター(JVC)
- 「継続助成」3団体に100万円を贈呈
 1. EDAYA
 2. 国際連合世界食糧計画WFP協会
 3. 国連UNHCR協会
- 「公募助成」5団体に95万円を贈呈
 1. マハム二母子寮関西連絡所
 2. シエラレオネフレンズ
 3. ネパール・コードを支える会
 4. ネパール震災ブリタム実行委員会
 5. ラリグラス

🌻「シンシア基金」20年



身体障害者をサポートする介助犬への理解を深めようと、1998年9月から始まった「介助犬シンシア・キャンペーン」と連動した「シンシア基金」が20年を迎えました。

介助犬や聴導犬は、法的にペットと同じで、歴史の古い盲導犬は、道路交通法による規定があったものの、身体障害者の同伴については法律に記されていないため、旅館やホテルなどで泊まる際に断られることがありました。

兵庫県宝塚市在住のプログラマー、木村佳友さんは介助犬シンシアとともに介助犬の重要性について講演会や政府の検討会で訴え続けました。地元の宝塚市は「シンシアのまち」を宣言、毎日新聞紙上でも長期連載や介助犬シンポジウムの開催などで全面支援した結果、2002年5月22日に飲食店をはじめ公共機関に補助犬(介助犬・盲導犬・聴導犬)の同伴受け入れを義務づける身体障害者補助犬法が成立しました。

この20年間で「シンシア基金」に6,262万円が寄せられ、同基金から、日本で最初の大規模介助犬育成施設「介助犬総合訓練センター」の建設費用や身体障害者補助犬ステッカーの作成、身体障害者補助犬シンポジウム開催費用、シンシア基金公募助成などの資金に活用されています。



第20回身体障害者補助犬シンポジウムで話し合うパネリストたち＝兵庫県宝塚市のソリオホールで2018年11月3日、小松雄介撮影

🌻高知市のNPO法人に配食サービス車贈呈

読者からの寄付をもとに、高齢者や障害者の皆さんへ配食サービスを行っている民間団体や福祉施設などに配食サービス車「毎日ふれあい号」を贈る事業は、2018年9月27日、高知市のNPO法人「アテラーノ旭」に贈呈されました。車はデベロ社(水戸市)が特殊改造したダイ

ハツの軽ワゴン車で、今回で32台目になります。

アテラーノ旭は平均年齢60代のスタッフ約20人が運営しており、07年に地域住民が交流できる場を作ろうと、食事と交流のスペース「まちのお茶の間」を設立。09年には自分で来られない高齢者を支えたいと配食サービスを開始しました。今では1日約150食を365日休むことなく、市西部地域高齢者支援センターの区域に配っています。

贈呈式では、山中雅子理事長(73)に記念のキーが手渡されました＝写真＝。山中理事長は「これからますます旭や高齢者のために頑張っていきたい」と話していました。



🌻「小児がん征圧募金」11団体に贈呈



毎日新聞の「生きる小児がん征圧キャンペーン」に寄せられた「小児がん征圧募金」の贈呈式が2019年3月6日、大阪市の毎日新聞大阪社会事業団で開かれました＝写真。



毎年、患者や家族の支援団体をはじめ、医療研究機関などに配分しており、同募金から下記11団体に各60万円、総額660万円が贈られました。

▽あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋)▽ぷくぷくばるーん(同)▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」(京都市)▽京都ファミリーハウス(同)▽近畿小児血液・がん研究会(大阪府吹田市)▽しづ

たね(同大東市)▽守口ぶどうのいえ(同守口市)▽日本クリクラウン協会(大阪市)▽こどものホスピスプロジェクトTSURUMIこどもホスピス(同)▽Japan Hair Donation & Charity(同)▽チャイルド・ケモ・ハウス(神戸市)。

🌻毎日社会福祉顕彰

福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する第48回毎日社会福祉顕彰(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)は、推薦された47件の中から次の2団体と1個人が選ばれました。

2018年10月31日に東京都千代田区のパレスサイドビルで贈呈式が開かれ、賞牌と賞金(各100万円)が贈られました。

第48回 毎日社会福祉顕彰贈呈式



- ◇韓国やフィリピンなど、外国籍の子どもの暮らしや学習を支援する特定非営利活動法人「在日外国人教育生活相談センター・信愛塾」(竹川真理子センター長、横浜市)＝写真左
- ◇不登校の子どもの居場所となるフリースクールなどを設立してきた奥地圭子さん(特定非営利活動法人「東京シュール」理事長、千葉県松戸市)＝同中央
- ◇虚弱児や被虐待児らの療育に力を尽くしてきた社会福祉法人「岩手愛児会」(藤澤昇会長、盛岡市)＝同右

🌻全国盲学校弁論大会全国大会

第87回全国盲学校弁論大会全国大会(全国盲学校長会、毎日新聞社点字毎日、毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催)が2018年10月5日、福島市の「コラッセふくしま」で開かれました。

全国7地区の予選を勝ち抜いた9人が出場し、「視覚障がい者だから」と題して発表した大阪府立大阪南視覚支援学校高等部専攻科柔道整復科1年の阿部亮介さん(22)が優勝し、文部科学大臣優勝旗や点字毎日杯、毎日新聞社会事業団杯などが贈られました。

●「歳末たすけあい運動」

「歳末たすけあい運動」を2018年11月9日から12月21日まで実施しました。同運動に連動している「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」を、12月8日から10日まで、毎日新聞ビル地下1階のオーバルホールで開催し＝写真＝、1,814万円の売り上げがありました。歳末義援金に寄せられた1,031万円を加えると、総額で2,845万円となりました。

売上金と義援金は、児童福祉施設や更生保護施設などの団体に歳末慰問金として贈呈したほか、公募助成金や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童らのキャンプ事業など、今後1年間に実施する多彩な社会福祉事業の資金として有効に役立てられます。皆様のご協力に深く感謝いたします。



●「公募助成金」235万円を贈呈

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や、先駆的事业を展開する団体などから一般公募で申請を受け付け、2019年1月29日に有識者による選考委員会を

開き、次の14団体に総額235万円を贈呈しました。

〈公募福祉助成金〉

- 7団体に90万円を贈呈
1. Woman's Ship(大津市)
 2. LFA食物アレルギーと共に生きる会(大阪府吹田市)
 3. 家庭問題情報センター 大阪ファミリー相談室(大阪市)
 4. 子ども食堂 スマイルシード(大津市)
 5. なごみの里(岡山市)
 6. みみっとの会(岡山県笠岡市)
 7. 和の心(大阪府茨木市)

〈シンシア基金助成〉

- 2団体に50万円を贈呈
1. 日本介助犬協会(愛知県長久手市)
 2. 兵庫介助犬協会(兵庫県西宮市)

〈世界子ども救援金助成〉

- 5団体に95万円を贈呈
*詳細は2面下段をご参照ください

●「施設児童就職予定者研修会」99人に「祝い金」を贈呈

児童福祉施設から独り立ちする生徒を対象にした「施設児童就職予定者研修会」(大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会児童施設部会、本団主催)が2019年2月10日、大阪市のシェラトン都ホテル大阪で開かれました。

前年7月から身だしなみやビジネスマナーをはじめ、毎日放送アナウンサーによる話し方セミナー、金融・法律の必要

な知識などを学ぶ「自立生活技術講習会」を13回にわたり実施しました。その最終回に今までの講習会を振り返り、施設出身の先輩の体験談や同ホテル講師からテーブルマナーの指導を受け、府警音楽隊が演奏で門出を祝いました。

本団は、1人1万円の「就職祝い金」を全就職予定者99人に贈呈。協力団体、企業からも祝い品が贈られ、生徒たちを励ました。

●「ゆうゆうキャンプ」開催

大阪府内の家庭児童相談室などで継続的に支援を受けている子どもたちを対象にした「ゆうゆうキャンプ」(大阪府青少年活動財団、本団主催)が、2018年8月9、10日、大阪府岬町の府立海洋センターで開かれました。

小中高生に学生リーダーなどを加えた30人が参加し、クルーザーやカヌーに乗ったり、タイヤチューブと木の板を使ったいかだ作りなどの海洋活動を満喫しました＝写真。

また、11月3日に大阪府河南町のワールド牧場、19年2月3日には大阪市港区の八幡屋公園、大阪プールアイススケート場で野外活動を行いました。



ご寄付の方法

■郵便振替でのお振り込み

郵便局に備え付けの払込取扱票(振替用紙)に金額、住所、お名前、連絡先などの必要事項をご記入のうえ、お振り込みください。送料(手数料)無料の払込取扱票(振替用紙)を必要な方は本団までご請求ください。

- 郵便振替口座番号 00970-9-12891
- 加入者名(送り先)
毎日新聞大阪社会事業団

■現金書留でのご送金

〒530-8251(*住所不要)
毎日新聞大阪社会事業団

*「社会福祉に」「毎日希望奨学金に」「世界子ども救援金に」など、寄付項目を必ずお書きください。

*金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきま。匿名や掲載不要を希望される方は、「匿名」、「掲載不要」とお書きください。

■ご持参

直接、本団事務所へ。
大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞ビル16階(JR大阪駅から西へ徒歩8分)。
平日は10時～18時まで受付(土、日、祝日は休み)。

■お問い合わせ先

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団
電話 06-6346-1180
FAX 06-6346-8681
E-MAIL: mainichi-osj@sirius.ocn.ne.jp
ホームページ https://www.mainichi.co.jp/osaka_shakajigyoy/

毎日新聞大阪社会事業団へのご寄付は、所得税および法人税の優遇措置が受けられます。また、ご遺産、遺贈された財産についても相続税はかかりません。

なお、ご遺産の遺贈については三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」の提携をしています。詳しくは同行まで。

編集後記 52

◆視力と聴力を失いながらも世界各地を巡り、障害者教育や福祉に尽力したヘレン・ケラー女史が亡くなり、50年経った。

◆「奇跡の人」と称されるのは、家庭教師として忍耐強く、献身的にヘレンを支えたサリバン先生によるもの。

◆その半世紀以上にわたる軌跡が、どれほどの障害者を勇気づけ、生きる喜びを与えてきたことか知れない。

◆ヘレンは人を支え、思いやる気持ちをランプに例え、「ランプを少し高く掲げるだけで足下を照らし、周囲を明るくすることができます」と訴えた。

◆この機に二人の偉業を振り返るとともに、ささやかながら自らのランプもいま少し高く掲げ、日々の社会福祉活動にのぞみたい。(和)